第4講

人文科学系(4)
個について

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　どうやらここまで来てはじめて,「個の認識」「個に徹する」といった先の用例におけるわれわれの語感ともよく合致するような,「個」の意味内実が得られたようである。しかしながら,以上のような思考の線での「個」のとらえ方には,さまざまの原理的な困難があるといわなければならない。

2　一つの全体としての集合体の性格やあり方はけっして,その最終的な諸部分としての個体の性格やあり方に「還元」されえないということは,いわゆる「要素還元主義」や「方法論的個体主義」(methodological individualism)に対する批判として,最近とくに活溌(かっぱつ)に論じられているところであるが(例えばA・ケストラーなど),いまその議論とは別に,もっぱら「個」の問題に注意を向けてみよう。

3　まず,「個」が前述のような意味で独立自存する自己充足的な存在であるとすれば,それが相集まって一つの全体(集団)をかたちづくるということは,「個」そのものにとっては付随的な,どうでもよいことであろう。一つの集合をなしていようがいまいが,あるいは,自分と並ぶ他の「個」がそこにあろうがなかろうが,「個」それ自身の固有のあり方はいささかも変わらないはずである。「個」はまったくの「孤」のままで自己充足しうることになる。だが,そのような「個」が,はたして実際にありうるだろうか。

4　実際には,「個」はつねに全体(集団,集合)のなかの「個」である以上,必ず全体および他の「個」との関係の上に成立しているのであり,そのような関係性が当の「個」のあり方と本質的にかかわっている――あるいは,「個」の本質そのものをかたちづくっている――といわなければならない。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

単純に“独立自存”する自己充足的な「実体」は，人間界にも自然界にもありえないのである。それをありうると錯覚するとき，「個」の尊重というそれ自体として当然の態度が，一方では，全体をも他の「個」をも顧みない唯我独尊的あるいは利己主義的な，悪しき意味での個人主義へと変質し，他方では，要素（原子）還元主義としてのマテリアリスティック・メカニズム（〈物〉を基本に据える機械論）という世界・自然の見方へと転化する。人間観としての「インディヴィデュアリズム」と，自然観としての「アトミズム」とは，やはりけっして無関係ではない。

5　つぎにしかし，そもそもいま見られたような「それ自身の固有のあり方を堅持した，他によって代替不可能なかけがえのない存在」という，一つの質的あるいは価値的な差異の観点を内包した「個」の意味内実は，じつは，全体をつぎつぎと構成部分へと分けていくという思考の手続きからは，けっして出て来ないはずである。「個」はこの手続きによって得られる最終的な部分としての単位存在ということであったが，「単位」とは元来が互いに同等でニュートラルなものであって，それ自体としては質的ないし価値的な意味での独自性や個性とは無縁である。事実また，原子論の本来の構想においても，原子という「個」の一つ一つはいっさいの感覚的性質をもたず，もちろん価値的にも互いに何の差異もないような存在とみなされた。人間の場合にも，上記の思考の手続きによって得られる「個」とは，いわば，連隊→中隊→小隊→班と分けていって最後に到達する，要するに“員数”の単位としての一兵卒のようなものでしかない。それは，制服がよく似合う「個」なのである。

6　以上のような，“individual”という語に即した「個」の概念にまつわる原理的な困難は，いずれも基本的には，この語が表わしている「分割」(divide, dividere, temnein)ということが，もともと当然のことながら，量的な分割であることから由来しているといえる。「全体をつぎつぎとより小さな部分へ分ける」とは，字義どおりには本来，量的な分割でしかありえないだろう。その結果最後に到達する量的な単位としてとらえられているからこそ，「個」は，他の同じような量的な単位と無関係に“独立自存”すると考えられるわけであるが，そのことの意味はたんに，単位としてそれ以上の分割をこばみつつ互いに外的であること，相互排除的であるということにとどまる。そしてこの，量的

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

単位としての外的な相互排除性の観念の上に，もともと考慮の内になかった質的ないし価値的な意味での独自性の観念が“とってつけられ”て――あるいは密輸入されて――，前述のような“孤”のままで自己充足する「実体」としての，実際にはありえない「個」の観念が虚構されることになるのである。

7　複雑な現象を理解するために，構成要素としての単位存在にそれを還元してとらえるという方法は，人間の思考がたどる一つの自然な径路であり，科学においてそれなりの大きな成果をあげてきた。しかし，有効ではあるがはっきりと限界をもったこの把握方式が，知らず知らずに絶対化されて，無自覚的にせよそのまま人間と自然の見方――包括的な世界観――の基本に据えられるならば，「個」のほんとうのあり方を正しく理解することは，ついに不可能であろう。結局は，計量の対象となるものだけに視界が限られてしまうからである。

8　「個」には，これまで見てきた「全体」や「集合」に対する「個」のほかに，「普遍」に対する「個」という意味もあるが，両者は密接に関連し合っている。どちらの場合も，「個」をありのままに「“もの”＝量的単位」の区切りがけっして絶対的・固定的でないようなネットワーク的な全体として，そして根底から質と価値に充溢（じゅういつ）した世界として，とらえ直さなければならない。そのとき，「個」の一つ一つは，全体および他の個との関係性をそれ自身の本質の内に統合して独自の価値を顕現し，そしてその価値を刻々と再把握しつつ自己同一を保つ，一収斂（しゅうれん）核として現われるであろう。当然，〈われ〉と〈このもの〉のかけがえのなさの尊重は，そのままおのずから，〈なんじ〉と全世界の尊重につながることになる。

（藤澤令夫「「よく生きること」の哲学」『藤澤令夫著作集第Ⅳ巻』より）

（2016年度　筑波大学　人文・文化学群　人文学類　後期　小論文(1)）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

著者の見解を踏まえながら，「個」についてのあなたの考えを自由に述べなさい。(800字以内)

解答案をつくってみよう

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

500

600

700

800

（　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

観点	項目	評価
設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター3

答案例①

　個はつねに全体、及び全体の他の個との関係の上に存在しており、「単純に“独立自存”する自己充足的な実体は人間界にも自然界にもありえない」と筆者は主張する。全ての個が全体の他の個と無関係ではないことはその通りだと思うが、しかし我々は時に唯一無二の個として自分だけが持つ個性の存在を信じ、「本当の自分」を求めて悩み苦しむことがある。数多の青春小説やポップス歌詞に描かれるとおりである。学校教育でも個性を伸ばすことを求められるが、個性とは全体に対してどのように存在しているのだろうか。

　ある人の特徴を説明するのに出身地や在学校などの所属を用いることがある。あるいは身長や髪の長さのような外見的な要素、あるいは活発や親切などの内面的な要素を用いる。それらの1つ1つの要素を持つ人は複数存在するが、全ての要素を共通して兼ね備えている人は実在しない。「個」を正しくとらえるためには世界をありのままに、その区切りが絶対的・固定的でないようなネットワーク的な全体として捉えなおす必要があると筆者が言うように、複数の様々な切り口から人の持つ特徴を見出していくことが「個性」の発見につながっていくのではないだろうか。

　そのように考えると個性とは探し求めるものではなく、全ての人がそれぞれに既に持っているものであり、成長と共にさらに自然に発露していくものだと考えられる。したがって、「本当の自分探し」ほどナンセンスなこ

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とはなく、「個性を発揮する」ことほど内実を伴わない目標もないだろう。個性は個人が持つ要素として全体の中でも滅しないものであるが、個が関係しあっているために、区切りの要素によっては個としての人間同士に優劣がつく場合がある。そこで、その要素をさらに高いレベルにするために努力することが個性を伸ばすことであり、そのような切磋琢磨が全体のレベルを高めることにもつながると考えられよう。

(788字)

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

観点	項目	評価
設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター4

答案例②

　「個」の本当のあり方を正しく理解することはついに不可能である、と筆者が述べているように、私は「個」を捉える人や環境により、「個」に対する理解が異なるのではないかと考えた。よって「個」の本当のあり方を正しく理解することは不可能である、という筆者の意見に賛成する。

　私には上に姉が二人いる、三姉妹である。母は私たちに同じ習い事をさせ同じように育ててきた、とよく言っているが三人とも見事に性格が異なる。一番上の姉は何事もきっちりこなしピアノを弾く技術が高かった。しかし、「長女」というプレッシャーもあったせいか、反抗期の時は凄まじく、家族皆が気を遣っていた。二番目の姉は、私と歳も近かったせいかよく遊ぶ仲であり、喧嘩も多かった。一番上の姉と同様、ピアノを弾く技術も高く、勉強に関しては一番よく出来ていた。しかし三番目の私は、二人の姉とは全く性格が異なり、勉強やピアノのレッスンも言い訳してよく逃げ出していた。それが許されたのは、母が私の逃げ足について来られなかったからだ。

　しかし、夏休みやお正月、親族の大勢集まる場で大抵親戚には「みんなそっくり」「さすが三姉妹」といったようなことを言われるまた姉の友達、私の友人が私達姉妹を見ると必ず「よく似ているね」と言われてきた。

「個」である私達には全く自覚がないが、それでも客観的に見られる時は一人ひとりではなく「姉妹」や「家族」という単位で見られ

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る。性格や特技は三人とも異なるが、「声」「表情」「咄嗟の反応」といったものが似てくるのは、それぞれ「個」であっても同じ時間を過ごした「家族」だからであると考える。

　よって「個」の本当のあり方というものを正しく理解することは、その「個」の置かれている環境や背景にまで考えが及ばないと不可能である。しかし「個」が異なるからこそ面白みがあり、それぞれの「個」に興味が出てくるのだと考える。

(790字)

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。